

2017年10月18日

2017年度前期授業評価のまとめ

教務学生委員会

今年度前期の授業評価アンケート調査の結果概要を以下にまとめる。ほとんどの基幹教員、講師、一部非常勤講師から回答が得られ、参加率は非常に高い。DICOMは大学院再編後であるが、開講された3つの授業がすべて参加した。概要を以下に記す。

	登録学生数 (研究生含)	回答者		設問 III-1-1 : 授業満足度					設問 III-1-3 : 授業達成度				
		数	%	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
研究科 共通科目	129	109	84%	1	1	8	47	52	1	0	9	51	48
DID	132	108	82%	0	2	5	48	52	0	2	15	41	49
DICOS	145	125	86%	0	2	11	55	57	0	4	14	54	53
DICOM	18	17	94%	0	0	0	4	13	0	0	0	5	12
合計	424	359	85%	1	5	24	154	174	1	6	38	151	162

※設問 III-1-1 は、問い「全般的に、授業内容は満足できるものでしたか」への回答分布。設問 III-1-3 は、問い「その授業目的が達成されたと思いますか」への回答分布。いずれも5が最も高く、1が最も低い。

[総評]

1. 設問 III の満足度・達成度ともに、昨年度とほぼ変わらず、平均して高い評価を受けている。
2. 昨年度と比べ、講師ならびに非常勤講師の授業評価アンケートへの参加が高かった。
3. 学生からの要望・意見として、(1)授業参加人数の設定、(2)レクチャーとディスカッションのバランス、(3)配布資料の活用、(4)課題・参考文献の紹介、(5)ビデオ教材や事例紹介の希望などが挙げられた。また、学生自身が認識する課題として、授業の予復習の徹底や、授業への参加、英語のスキル向上などが指摘された。概ね高い満足度が得られているが、さらに授業を有意義にするための意見が出された。
4. 教員の意見としては、(1)学生の予備知識や習熟度を測りながら適宜対応する工夫、(2)予復習教材についての再検討、(3)授業内のプレゼンの意義の再確認、(4)テーマの選定についての工夫、といった課題が挙げられた。従来と同様に、文献課題を読んでくる学生とそうでない学生、積極的に参加する学生とそうでない学生の差についてさらなる対応の必要性が指摘された。